

寫

常磐級第二九號

二月九日旅順港口に於て戰鬥報告及提出書也

明治廿七年二月十日

常磐艦長 吉松茂太郎

第一艦隊日長原上村長官之呈

戰鬥報告 第一艦隊軍艦常磐

明治廿七年二月九日午前十時二十分旗艦出雲は從つて

順港外過岩、北方に在り、旗艦は從つて總負戦

門配置に就て進航ス

午前十時五十分旗艦は依り總負書良ス

午前十一時旗艦は從つて旅順港口に向つて航跡計着也

午前十一時十分旗艦は日る今敵、主戦艦隊ヲ

攻撃せしむる各戦隊戦闘序列は台位せしむ依り
 総司令官の戰鬥部署に配し本艦連力を十五節とし
 前衛艦八隻、航跡を道に
 午三時四十分、旗艦出雲の敵艦見しむる信号あり
 午三時四十分、分旗艦二隻、軍艦旗の大旗を掲げ
 午三時四十分、敵艦陸上砲台より発せしむる
 砲撃は厚く一発第一戦隊の右側即ち
 敵側、海中に落下せりと思ふ
 午三時四十分、分旗艦信り曰く「勝敗
 一決此一战にあり」各負一層奮勵努力
 力せしむる
 午三時四十分、分旗艦順港に近り徒港の西方

二偏に敵艦九隻ヲ認め之ヲ艦ヲ海軍と令部アリ配
附せしえ口有るト對照シ尤、各艦ト想定ス

(附看業照)

旗艦

ペトロパウロスク

前橋中將旗ニ自取手也

左

ホビエタ

軍艦

ポルタワ

左

プレスグイト

左

レトグイザレ

左

ツザンウイッチ

左

バヤーン

左

アスユールド

左

ノブイック

此外小砲艦四五隻アリ

午後零時八分、旗艦三笠、第一、後砲下
 砲台、各艦砲火ヲ開キ陸上、諸砲台
 何レモ又發砲ヲ開始セリ
 我艦隊各艦三笠ニ次ニ逐次發砲ヲ開始スル見
 本艦午後零時十五分敵艦ヲ距一萬米突、地
 震ニ至、初メテ八ノ砲ノ發砲ヲ行ヒ零時十八分至
 リ直ニ八ノ米突、地震ニ至、六ノ砲以下、諸砲ノ
 發砲ヲ行ハリ
 午後零時二十四分、零時二十九分、間、最も照準
 道ニ先位置ニシテ巨音最近五千六百米突ニ達シ本
 艦ノ彈丸ハ確カニ敵艦ニ命中セシメ多クヲ認
 メリ(附着中彈痕ノ件参照)
 敵艦ハ本艦首ヲ標シテ航路、大約五十米突ニ落

0058

下はしる、一何前艦橋ヲ起テ本艦大形側海中
 落テ先キ一何本艦尾ヲ掠メテ退ガシテ一何本艦
 右側海中ニ落テシモノ無敵ニシテ其光景実ニ凄
 然アリシ
 敵艦ノ多クハ南西方ニ向ヒ錨泊シ唯ト口ハウ
 ヒヌリ、アスコールド及ノヴイッリ、三隻運動シツ
 ンアリシヲ認ム(附着中第5号)
 午後零時三十分敵艦ヲ遠カリ先ヲ以テ發砲ヲ止
 ム亦艦ノ祭祀時同ハ十六分間ニシテ発射
 シタル彈丸ノ數ハ別氏清耗報告ノ如シ
 午後零時四十分艦内各部ヲ検査セシム艦體兵器
 損傷トモ何ノ異状ヲ認メズ徒テ敵彈ニ基テ死
 傷者ナシ

0059

二月九日戰鬥中治療所記事

本日戰鬥中敵軍ノ損傷ナリ

三等機関兵 船井源之助 揚子機ニ扶ミ右環指

挫創

三等水兵 貞岡田仁藏 彈藥墜落、右示指指掌

骨節即部挫創ヲ負ヒタルニ 輕傷ナルヲ以テ

之ニ處置ヲ施シ再ヒ戰鬥任務ニ就カシメタリ

0060

消耗彈藥數報告
軍艦常務

一八甲砲

鍛鋼榴彈
榴甲榴彈
常裝藥

三二
三七
三九
九
九

一六甲砲

鍛鋼榴彈
常裝藥

一一
一一
一〇
一〇

一十二斤砲

鍛鋼榴彈

一五
一五

0061

常世茶

一五
明

0062

軍艦常磐機雷部戦闘記事報告

明治廿七年二月九日午前九時五十二分戰鬥配定、

了當時本艦は四機雷準備完了し全艦汽

機力百五十磅を保ち内七機雷使用約十回轉

航進しつり、依り直ち各負其配置一就

カシメ流鏑併用左右舷銃室中央防氷處二枚ヲ

半周セルル、計凡ソノ防氷條防禦戸及水雷

口等ヲ金鎖セリ

戰鬥開始ニ先チ本職ハ部下各負、尤ノ命令ヲ

ナリ

一戰鬥開始前准士官以上の總テ制規、通常軍服

ヲ着用スル

一、下士子の新キアラシニ襦袢及股引ヲ着シ上
 部ニ掃除服ヲ着有同ク下リ
 掃除服ノ襟元ニ明膏ニ其氏名ヲ記入シ置キ可シ
 一、軸路ノ豫メ其注油ニ外却油ヲ充満シ毎
 十五分ニ防氷麻ヲ半用ニテ検査ス可シ
 一、午前十時五十三分令依リ半航宛食事ノ就カム
 一、午後零時十五分戰鬥開始
 一、戰鬥中汽壓ハ百五十磅ヲ下降シクルコトナリ流
 機ハ七十回轉コト百廿回轉ニ急変厚運轉シ先
 何等此ノ故故障ヲ艦橋ニ命令ハ迅速ニ返
 行セヨ
 一、海機全部凡シ満足ニ働作シ甚急ニ通信装置
 置ニ確實ナリシ

一之了先々佐世保出港後三英山炭ヲ使用し初シ
 以來減速力航海中ハ可成其物炭ヲ使用し塊
 炭ハ戰鬥者ハ大速力ヲ要する準備トテ撰出シ
 艦ハ汽鐘室床土ニ堆積し置カムル
 約十四五噸ニ及ヒシヲ以テ戰鬥中ニ全ク奪大英
 塊炭ノミヲ使用スルヲ得タリ
 一午後夜時三十分打方止メ戰鬥ヲ了ス
 一戰鬥中砲ヲ其故障ヲ上クル中ハ發砲激震依
 三第汽鐘室主給水機突縁衛帶漏泄ヲス
 約十五分間ニ衛帶ヲ引替ヘ之ヲ修繕ス
 艦内ヲ通シテ白熱燈球ハ發砲震動ニ依テ破損
 七八ノ僅カニ五個ナリシ
 一戰鬥中重大消耗品ハ余リニ短時間ニ過キ甚

量ヲ測定し難キリシモ大丸ノ丸ノ數量ニ過キ

石炭 炭炭 四頭八 外部 廿四律

之ヲ要ス各負其分ニ應ジテ執心沈着能ク其
事ニ當リ一意奮勵シテ見ルト苦流雖流機
何等ハシカ造憾ナキ矣才実力ヲ發揮シテ
惚ム

右ノ報告也

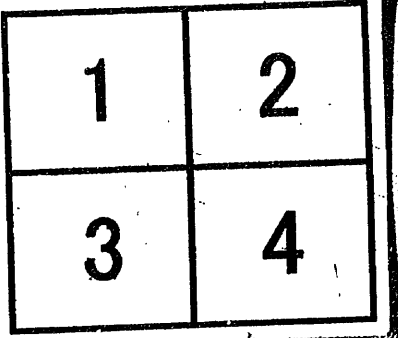
明治三十二年二月十日 於岡山

常務探査長 伊達只吉

常務部長 松茂太郎 敬

0066

分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

0067
0068
0069
0070

本艦発射弾数

八号砲
六号砲
拾二号砲

三十九発
百拾発

本艦の敵艦隊に命中せしめたる弾数

八号砲

三發

（トウバウロスク等）二發
（若しバウロスク等）但し運轉せしむ
（アスコールド等）二發

六号砲

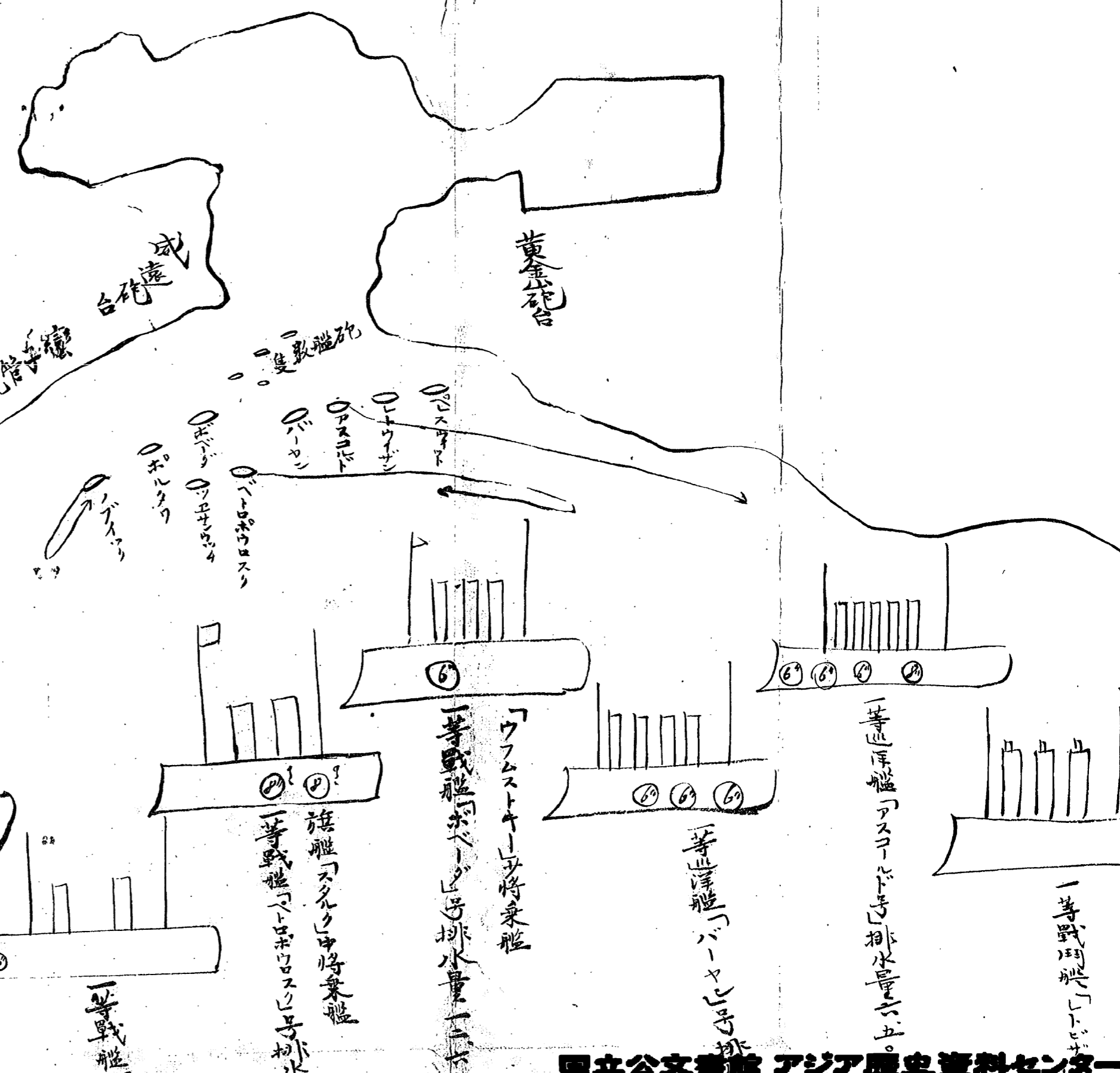
九發

アスコールド
バーヤル
おベーク
ワエガニウイ
ノウイウ

三發
三發
一發
一發

（アスコールド）
（バーヤル）
（おベーク）
（ワエガニウイ）
（ノウイウ）

一發
一發



充完後

想定する弾数

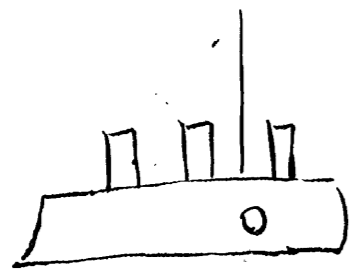
ワロスク号 二発
ワロスク号 二発
ワロスク号 二発
ワロスク号 二発
ワロスク号 二発

レド 三発
レド 三発
レド 三発
レド 三発
レド 三発
レド 三発
レド 三発
レド 三発
レド 三発
レド 三発

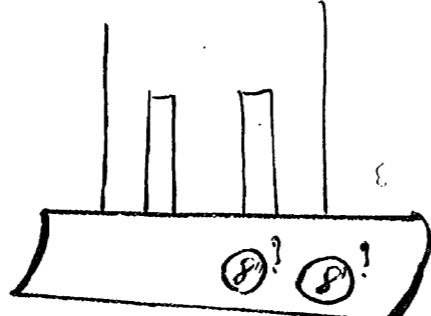
各砲管子の長

一隻の艦

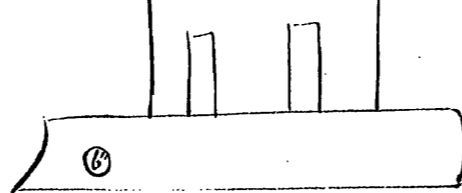
ワロスク号
ワロスク号
ワロスク号
ワロスク号
ワロスク号
ワロスク号
ワロスク号
ワロスク号
ワロスク号
ワロスク号



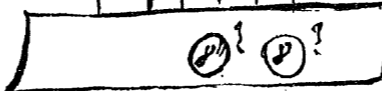
三等巡洋艦「ブリット」号 三〇〇噸



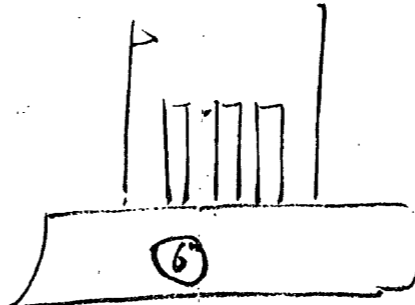
一等戦艦「オースティン」号 排水量一〇九〇噸



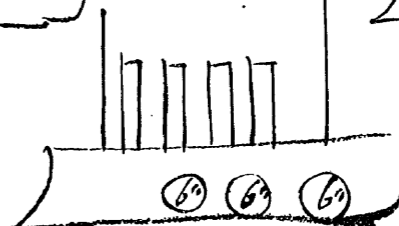
一等戦艦「シムソン」号 排水量一三九〇噸



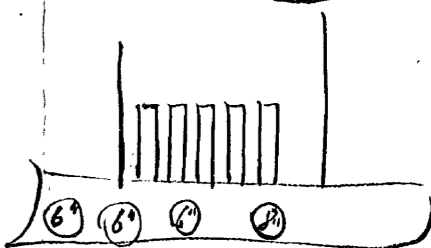
旗艦「スミス」号 中將乗艦
一等戦艦「ハートランド」号 排水量一〇九〇噸



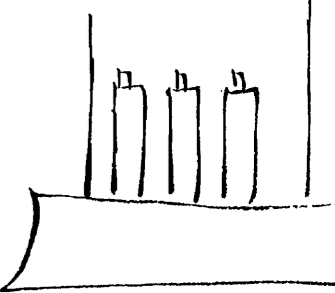
ウフムトキー号 中將乗艦
一等戦艦「バーヤン」号 排水量一三九〇噸



一等巡洋艦「バーヤン」号 排水量一三九〇噸



一等巡洋艦「アズノ」号 排水量一〇九〇噸 (恰ト戰鬥力ナシ)



一等戦艦「トビヤ」号 排水量一三九〇噸

台砲管子機

隻数艦

ノボルト

ボルト

シロ

ノボルト

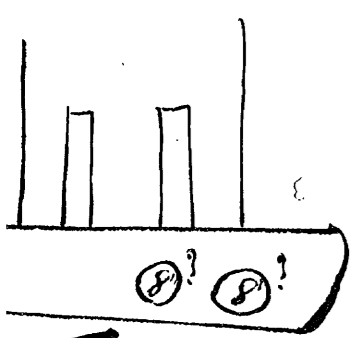
ノボルト

ノボルト

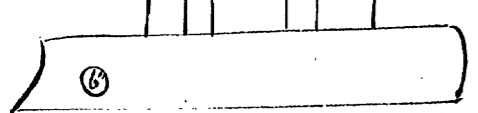
ノボルト

ノボルト

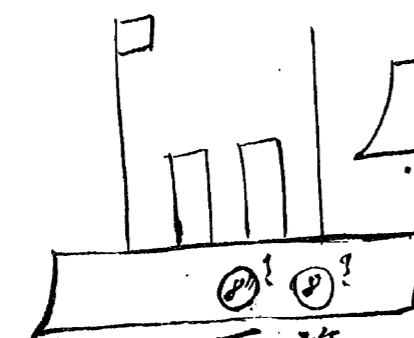
ノボルト



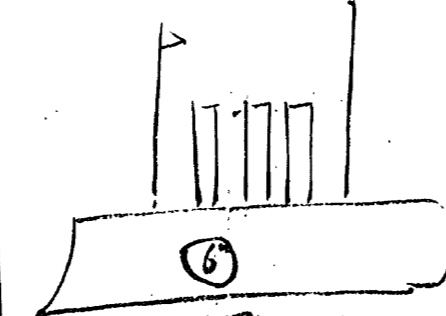
一等戦艦「サトウ」排水量一、九七〇噸



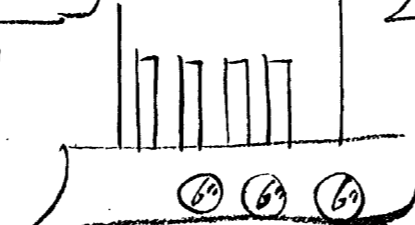
一等戦艦「サトウ」排水量一、九七〇噸



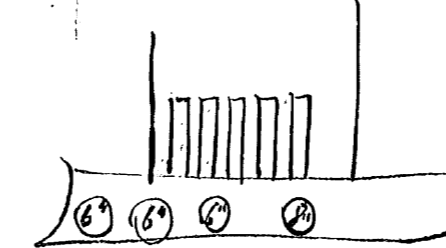
旗艦「スズキ」中將乗艦
一等戦艦「ノボルト」排水量一、九六〇噸



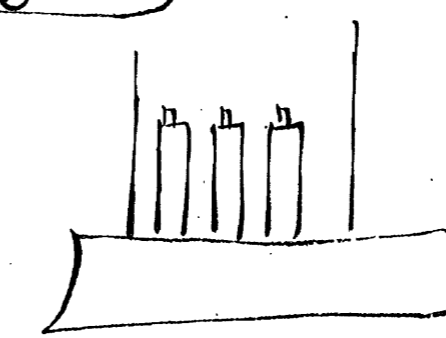
ウフムスター「中將乗艦」
一等戦艦「ノボルト」排水量一、九六〇噸



一等戦艦「ノボルト」排水量一、九六〇噸



一等戦艦「ノボルト」排水量一、九六〇噸 (特戦艦カネ)



一等戦艦「ノボルト」排水量一、九六〇噸



一等戦艦「ノボルト」排水量一、九六〇噸



碧手機密第三三號

戰時報告例草案九條第十三条ニ基キ
別紙提出候也

明治三十七年二月十九日

第一艦隊司令長官上村元三
碧手機密長官高橋

0072

戰況詳報

第十三条第一
天气快晴 取カ濃氣アリ南、微風ニ催

午後二時

午前八時三十分北皇城島西七哩半、地矣
了、遇岩ノ南方ニ向テ針路東ノ北十時北
東ノ東ニ変針航行中千歲ヲ教、並カ
港ノ外ニ報了十一時七分遇岩、北方五
哩、地ニ達也、中各隊、向隔ヲ百來突速
力十五節、信号了各隊右十六兵、庄面

変機ヲ決リ再ビ西北西ノ北ニ變針各隊一縱
 引トテ旅順港外露艦主力ノ攻撃ニ向テ十
 一時四十分戰鬥旗ヲ揚テ十時四十分聯合
 艦隊ノ長友ヲ勝敗ノ決戦ニ戰ニ各負奮
 勵努力セヨト信号アリヤ自ラ之ヲ總員傳達
 し士氣ヲ鼓舞ス其時旅順港外ニ於テハ南ノ
 久風ニテ敵艦皆南方ニ向テ又ニ煙筒ニ白
 塗シテ敵艦ハ港内ニ逃避スルヲ見ルニ時零正
 西ノ針路ニ就テ十二時十分敵艦ヲ巨ルニ
 突ク者セシト敵對艦右舷側ハ露艦ハバヤ
 ヲ照準シ彈着巨雷ノ近寄ルヲ待テ其時第一戰
 隊ノ各艦ハ既ニ砲大ヲ交換スル見ル十五分巨雷
 八千米突ク者ニヤ本艦又砲大ヲ開ク開戦初期

於ケル敵艦ハ多ク炸裂彈ヲ交マシ見ル事期
 於ケル金山砲台ハ榴彈砲ニ鶏冠山及高橋子
 等砲台ハ直射榴彈ニ種砲ニ敵艦ノ後
 二度射撃ヲナシ又港外ニ於ケル露艦ノ内零時二十
 五分アスコールド及アビックハ泊地ヲ占内シアスコールド
 ハ東方ニアビックハ南方ニ其艦ヲ運用シ砲戦ニ
 務メ其他ノ諸艦ハ碇泊ノ俟終始應戦セルニ
 十二時三十分西南西ニ変針セル中アスコールドハ東
 方ニ徐行スル見ル事本艦ハ直射ニ照準ヲ之ニ移シ
 砲撃シタリ其申テ後砲台ハ尹彈一何ハ彼大
 橋ノ后方艦側ニ余申テ炸裂セルガ如ク終期ニ
 於テ流航先第三戦隊ハ大田兵ノ一着回ラ行
 ヒシ者、如ク戦列ノ外方ニ航進スル此時ニ高橋敵艦

廣く船側附くこと落下しシリが内一弾は右舷橋
 二近ク右舷海面に於テ炸裂し船側を教々穿つ
 破口ト見高者ヲ生ぜんニ至リ又奥形水雷一何
 本艦ノ前方ヲ通過せり之教艦ヲビツクしノ発射
 せしモノナニト信ず此時アビツクしト鼻近巨雷三千
 二百ニ接近しテリシヲ以テ勿論我カ他撃ヲ免ルガ
 リシトモ甚確實ナル余中隊ヲ認めん能ハザリシ
 東方に旋白シテ露艦一隻ヲツサレウイテシテ煤
 烟ヲ揚ゲス又砲大ヲ開カズ艦位不動ナリニ或
 ハ駆逐隊ノ奏功セシモノニアラスヤト疑フ
 ナ射ニテ四方散漫ノ向ニ飛来スニト見ル巨雷の
 シ遠ク発射ヲ停止し雲外五十名南東ノニ南東
 針を北ノ前流航ニ随航セリ

第十三条 第三

「アスユー」ル「バ」ヤ「ビ」ツ「シ」外九隻（上九隻は遠
近島大の確知不能なりし）

左条 第四

「シ」ル「ア」ヤ「シ」

左条 第五

二月九日午前旅順港外ニ「ア」ル「シ」ル「ア」ヤ「シ」
右船側初ノ發射準備ヲ整ヘ敵艦隊ニ近接
スルニ付揚子灣ニ午後零分十五分敵艦隊中
西方ニ方位見シ「バ」ヤ「ビ」ツ「シ」外九隻ハ
約八千米突ノ巨砲ヲ八ノ初十五秒間ノ發射
ヲ開始ス敵砲亦應戦セリ七千米突内ハ

方々実ノ巨艦
敷出先ヲ以テ直向
標ヲアスコトトモ
換シ給

此ノ射撃セル頃「アスコ」トシテ東方ニ航進シ約
五千五百米実ニ近等々新次相隣リ遠巨艦トナ
リシラ以テ同標ヲ敵艦隊ノ中央部ニ方ニ戦闘艦
及中隊並ニ何艘ヲ敵隻ノ相重疊セル如ク見
ル敵艦ニ交シテ射撃ヲ速速ニ巨艦約四千米
ノビツリシ号ノ單艦西方ニ航進シ巨艦約四千米
実内方ナリシヲ以テ再ビ目標ヲ交シ「アスコ」トシ
砲撃手ス此時十二斤砲ノ射撃ヲ開始セリ午後
零時世々敵艦ト遠カラシメ射撃ヲ停止
セリ又水雷艇射撃ニ遠ニ達セザリシ
射撃ノ効力此日ノ戦闘ニ大ニ射巨艦概シテ遠ク
且テ濃気ノ為ニ測距照準等ニ困難ヲ感シ
而シテ大ノ効果ニ至ラズ我艦隊各艦ヲ

発射され、彈丸彈着ヲ混乱シ觀測充分ナラザリシ
 モ尤モ信スヌキ調査ニ依ルバ「バリーヤ」ノ「アスコルト」
 及「ノビウリ」ニ於テ彈丸命中シ炸裂セルモノハ
 如ク其他ノ敵艦ニ於テ亦命中彈丸ハ充分ノ
 別スルヲ能ハザリシ
 全番第六
 信号隊司令及副司令
 午前十一時廿五分信号、今ヲ敵・主戦艦隊ヲ
 攻撃スル會合兵ヲリフオールド列島午前十時
 四十五分信号、勝敗ノ決此一戦ニ各負一層
 奮勵努力セヨ
 第七番
 汽力二五五「ポイント」

0079

汽機回轉數一四三
速力 約十九海里

全条第八

傷者ノ多數ハ右舷側中央後ノ海中ニ沈テ

炸発ニ先彈丸ノ破片ヲ被リ先ニ傷者

ニ備世帯ヲ施スコトヲ直ニ治療所ニ運搬シ又

輕傷ノ者ハ單獨治療所ニ至ラシテ治療ヲ施

セリ

全条第十

概同長五後需求消費報告

品名

数称

数量

石炭

キ口

約四五〇〇〇

内部油

リットル

約

外部油石台 一五〇

左巻第十一

乗負総テ沈着ニシテ熱心戰鬥ニ從事スルヲ
認ム

右巻第十一

戦場ニ依リ生シカ機用部ニ関スル情状ノ主機
及油機等ノ故障ナリ効力完全ナリシ

左巻第十一
遠征巨砲戰ナリカ故ニ混雜ノ度從テ少ナリ
特ニ改良ヲ要スベキト莫ク認メサリシ

0081

戰鬥詳報第一號附錄

軍艦發着手兵器消費表

砲區台

種

徹撃彈

鋼橋彈

合計

記事

安式八連討砲

老七

老七

四八

戰鬥際發射

左 五吊裝菓

老七

老七

四八

安式十五連討砲

八一

五八

一三九

左 五吊裝菓

八一

五八

一三九

安式十二連討砲

八一

老七

老七

左 五吊裝菓

八一

老七

老七

戰馬詳報第二號附録

第十五卷第九

軍艦艇名手破損箇可調査及應急手段
破換箇可一換害概況
應急手段

艇体部

中程電探室側上部

左舷右舷側ソコ

士官室浴室

先任若漢室

下甲板電探室附屬浴室

下甲板電探室側上部

豫備室右舷側上部

豫備室下部

三時大、彈片貫通、大孔、穿、
左舷入口扉、上部、穿、
彈片貫通、其大廿三時大、孔、穿、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、

三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、

三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、

三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、

三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、

三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、

三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、

三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、
三時大、彈片貫通、浴槽一箇、破、

艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、

艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、

艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、

艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、

艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、

艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、

艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、

艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、
艇外外部、鉄板、管、之、艇側、中、

全室后部上部

大橋

後橋

後部若船側防波壁

後部煙筒

上甲板最後方予受壁

七番「ケース」ト壁

メインデッキト壁

後部船橋右舷ト壁

右舷ト壁

艦長公室内ト壁

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

三時大層貫通し破片全室入口散乱

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

右舷

水雷、新

無傷電信導線引合田
筋蓋 者同

敵陣破片を引取時、生七發核

無傷電信導線引合田
筋蓋 者同

右左

其後、使用可

後部電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

右左、使用可

右部電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損也

右左

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

交換、接合可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

交換、接合可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

交換、接合可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

交換、接合可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、切斷也

接合可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

必要、感電也、其後、之、要、可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

必要、感電也、其後、之、要、可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

必要、感電也、其後、之、要、可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

必要、感電也、其後、之、要、可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

必要、感電也、其後、之、要、可

土居電信導線引合田
筋蓋 者同

厚片、右、破損及切斷也

必要、感電也、其後、之、要、可

戦国評報第三号 附録

死傷者人数表

船名	死	重傷	軽傷
屋船 石手	十一	三	九
以上	十一	三	九
以下	十一	三	九
以上	十一	三	九
以下	十一	三	九
以上	十一	三	九
以下	十一	三	九

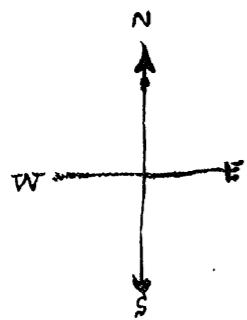
記事

軽傷九、内四、敵弾大なるニシテ
不装填等際及傷せし者

0086

明治廿五年三月
張明港攻勢略圖

0 1000 2000

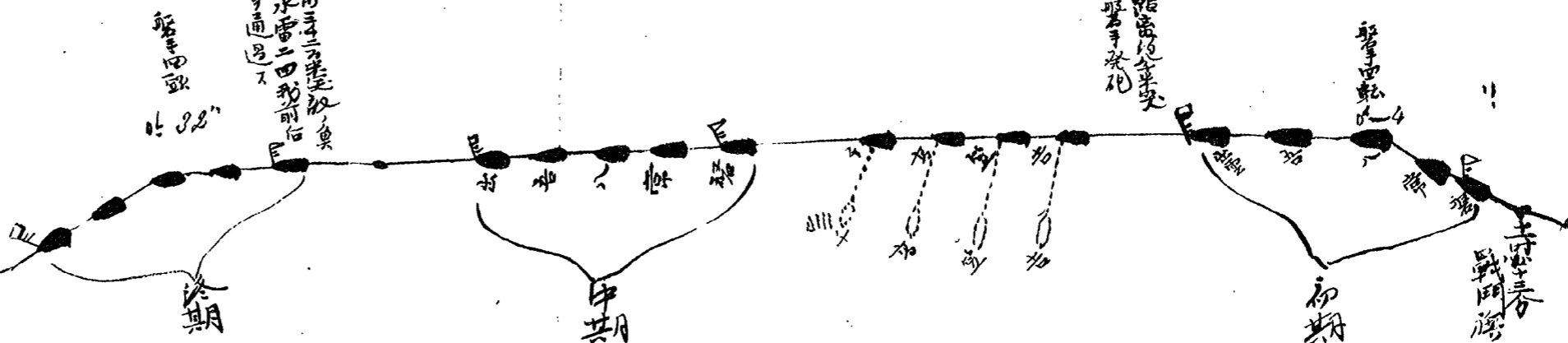
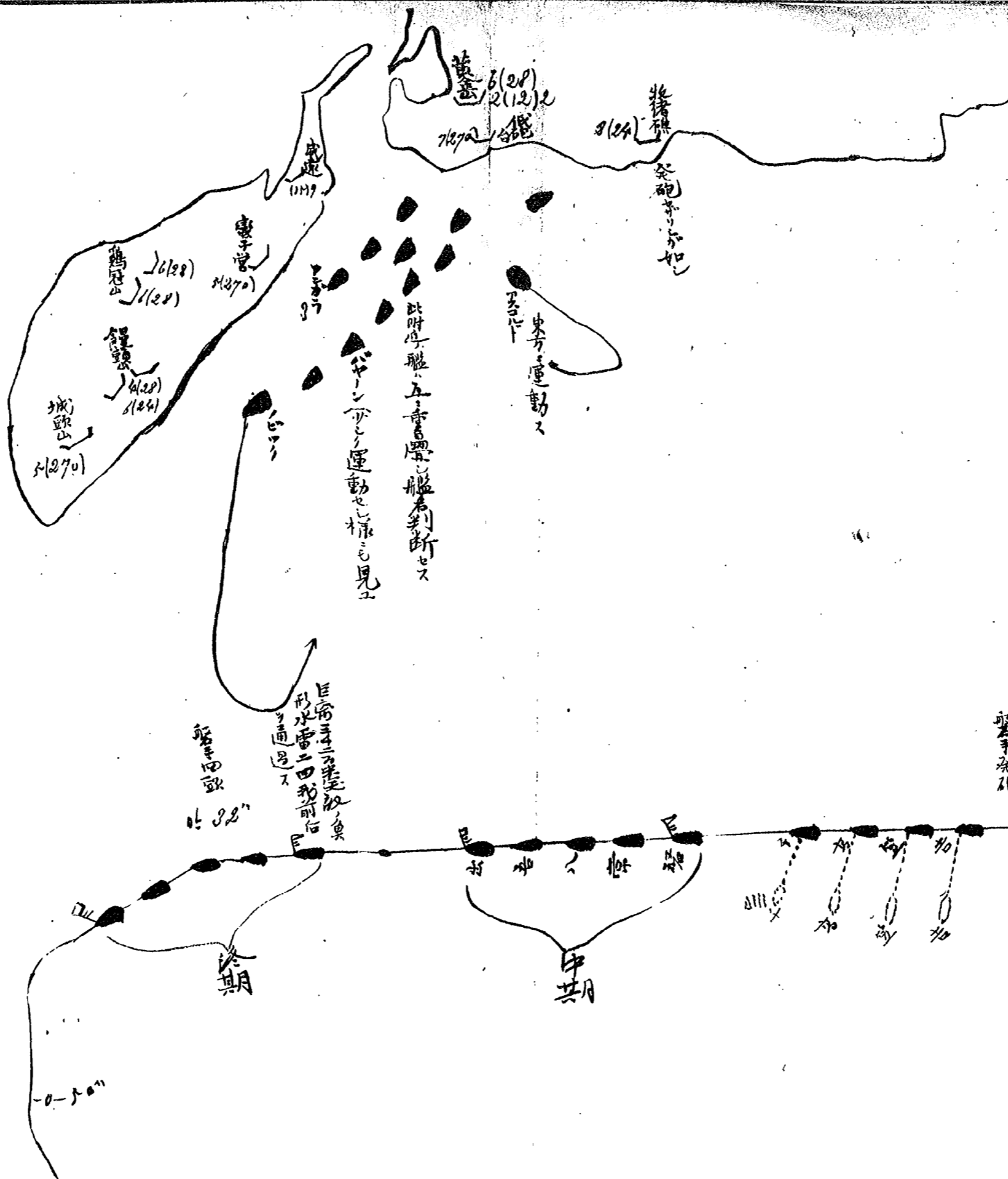


敵艦
味方艦
運送船



戰時形勢略圖

朱三戰隊一隊 (三支部) 於三月八日
朱三戰隊一隊 (七隊) 於三月九日
十、中旬、



0089

寫

八雲城密考二六號

戰時報

戰時報告的 各領大記の通、及報告(スル)

一、アスコリント、ノ、ブイ、ク、其他の艦、二隻、旅順港

外、鋪地附近、航行、し居、る、他、の、艦、一、隻、泊、し居、る

艦、一、隻、ハ、我、艦、隊、ヲ、突、ク、シ、居、ル

余、中、隊、ヲ、有、シ、大、突、ク、起、シ、居、ル、様、見、受、ク、シ、居、ル

ハ、八、甲、砲、彈、一、発、ハ、ノ、ブ、イ、ク、ニ、余、中、大、損、害、ヲ

與、ヘ、ス、モ、ト、思、ハ、ル

二、ナ、シ

三、ナ、シ

四、フ、オ、ル、ア、ッ、バ、ー、ト、ッ、プ、ニ、敵、艦、距、離、測、定、

徒、事、先、シ、尉、候、補、生、素、原、岩、ニ、即、敵、彈、破、

近江守の如く上村君之丞

八雲興長 松本有信

明治七年二月十日 龍牙山

先方者右大腿及腰部ニ重傷ヲ負フ
他ニ死傷者ナシ
敵陣ニ立寄リ一死後部砲塔(甲板上ノ瓦二吹
ニ乗中ニ僅ニ長三吋、二條、亀裂ヲ生シ夫
滑リテ右舷ニバルクヘツト、後部ニ出外ニ置キタ
ル四七砲、楯ニ當リ、損傷シ、再ヒ滑リテ
バルクヘツト、當リ、二個計、出外ニ置キタリ
右舷ニフォールローアブレス大橋橋、右舷ニ
了切斷、ノイントツブスヤード、大艦バシ
タリリフト切斷、以上

0091



吾妻艦密考三六詳

軍艦吾妻

戦闘概報

明治三十七年二月九日
旅順港外

一 戦闘中目撃シタル重たる事項

敵ノ戦艦「プレスウエストコート」カ「ポベーター」カノ内一隻

戦闘終期ニ於テ砲火ノ甚シク減退セルヲ認メ

タリ

二 戦闘中獨立處断シタル事項

ナレ

三 戦闘中、實際ニ依リ至急改良ヲ要ス

（キ点）

ナレ

四 死傷被害ノ概略

ナレ

一頁

横濱分社印刷

0092

右報告候也

明治三十七年二月十日於牙山

吾妻艦長藤井敷一

茅二艦隊司令長官上村彦之丞殿

海軍

0093

軍艦隊第三六号

参謀長

参謀佐官

副官

付録

印

三月十一日

月 日 時

戦闘概報

明治三十七年二月九日

軍艦吾妻

一、戦闘中目撃シタル重要事項

敵艦フレスウートカボベーターカノハ一復戦闘
終期ニ於テ砲火ノ甚シク減退セルヲ認メタリ

二、戦闘中獨立處所シタル事項

三、戦闘中實驗ニ依リ至急改良ヲ要スル点

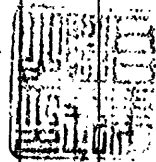
四、死傷被害ノ概略

右報告候也

0094

明治三十七年二月十日於牙山

普妻艦長藤井較一



茂三艦隊司令長官上村彦之丞殿

0095

参謀

参謀

陸

海

圖書

印

公報第二〇九號

戰時概報

月

連

戰時報告例第九條ノ各項左記ノ通り及報告様也
 一 アスコリッド、ノーブイク、其他小艦ニ三章又ハ旅順港外
 錨地附近ヲ航行居ルモ他ハ錨泊シ居ルモトモ、如シ又
 戰艦艦一隻ハ其艦隊ヨリ棄シタル命中彈、為メニ火
 災ヲ起シタル標見受ケテ、本艦ハ手銃彈一發ハノ
 ブイクニ命中大損言テ、スハシモト因心ハシ
 ニナシ
 ミナシ
 四、フォールアウト、トップニテ敵艦距離測定ニ從事セルヲ尉
 候補生、栗山、石、即、敵艦被撃、為メニ右大船及
 腰部ニ重傷ヲ負フ他ニ死傷者ナシ

0096

敵艦(大崎台)ニ一発右部銃塔(甲板より)ニ中
僅長三、二條ノ艦(表ヲ生シ夫ヨリ滑リテ右舷
ノヘッド)ノ後部ニ取テ置キルハ七密銃ノ積ニ
損傷シ(再々)ノ損シテバローノヘッド(ニ)當リ
生シタリ

右舷(ブール)ローアブレイク(大)橋(樓)ノサ
メイン(トップ)アスミナードノ左舷(ア)レ
ベント(リー)フト(即)所

以上

明治三十七年二月十日

松牙山洋

ハ雲艦長(松本)有信



第三艦隊(支)上村(及)之(家)一殿

0097